

やまと 広報

2012(H24)

1

No.83

陸月
1月25日発行

通潤山荘の玄関に飾られた、今年のえとの竜が描かれた絵馬です。寄贈したのは男成神社。8年前から毎年通潤山荘に寄贈しています。この絵馬を制作したのは、町の社会教育指導員、伊藤一善さん。力強く描かれたこの竜が通潤山荘に訪れる観光客を出迎えます。

Contents 主な内容

2～3 P…………… 新年のごあいさつ
4～5 P…………… 成人式
6～7 P…………… 新裏町「ソラ屋」オープン

12～13 P…………… まちの話題
21 P…………… 山都町3連覇～町対抗駅伝大会
25 P…………… すくすく育て

新年明けましておめでとうございます。

合併後の山都町のまちづくりに私情、私心を持ち込まず、愛町一路の信念で、みなさまの指導を仰ぎながら、今年も精一杯がんばります。

今年は、生活面での基礎的条件の整備に努めます。高速道路は、町の過疎対策の特効薬のひとつだと考えます。早期完成に向け、予算確保のための運動を強力に進めます。また、町内を走る県道・町道の整備や浄化槽の普及推進、太陽光発電設置を支援します。新庁舎建設については、大変ご迷惑をおかけしていますが、今年こそ着工します。各町村長が合意し、議長立ち会ひのうえで決定された合併時の協定を守り、実行するのが王道の政治です。早く完成させ、機構改革や事務改善に努めて、合併特例債をうまく活用し、将来を見据えた盤石の財政運営を行います。

夏秋野菜の生産出荷額は昨年も好調でした。都市の経済が低迷している一方で、基幹産業である農業が元気なのは、嬉しいものです。トマト選果機導入を支援します。林業面では、カーボンオフセット制度の活用などを進める一方、伐採跡地への計画的な再造林を指導します。

浜町商店街のバスターミナル、イベ

ント広場、まちなか再生、美装化などの事業をさらに進めます。

子育て支援の一環として、医療費無料化の対象を中学生まで拡充します。

町立蘇陽病院の完成は8月末の予定です。透視治療が可能な設備を整え、歯科を統合し、信頼される病院を目指します。民間の特別養護老人ホームが2施設オープンしますが、必要な福祉サービスを充実します。

そよ風パークの「道の駅」認定に向けた取り組みを推進します。沿線産業の賑わいを期待し、車の流れを増やし

たいと考えています。

全国棚田サミットが、10月に山都町で開催されます。条件不利地の農業に対する理解を変えるために、全国へアピールします。

九州新幹線の開業効果を期待し、町の魅力を関西など新幹線沿線都市に向けて発信していきます。3月の日向往環歴史ウォークにたくさんの方参加者呼び込みしたいと思います。引き続き、文化行政の推進と人づくりにがんばります。

人口減少が著しい山都町ですが、都

市住民の田舎志向が進むなか、Ｉターン・Ｕターン対策を充実させ、受け皿づくりを進めます。

価値観に変化が見られる近年ですが、山都町の住環境のすばらしさを再確認し、誇りを持って、自らのライフスタイルを確立したいものです。

今年が昇竜のごとき勢いある年になるように、熱い思いを持ち、町政に取り組みます。皆様にとって幸多い年となりますようにお祈りいたします。



山都町長 甲斐 利幸

迎春

新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。
町民のみなさまには、益々ご健勝にて心も新たに、新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。
私たちは、時の流れの中で、ともすれば自分を見失いがちです。人は時々立ち止まり、心に花を咲かせる必要があります。本来ならば、昨年1年間でたまった疲れをいやすために、のんびりと、自分を静かに振り返るゆとりを持つことも大切ですが、元旦からさまざまな行事や催しものに参加しながら、今年も多忙になる毎日を感じ、確固たる自信と信念を持ち、初心に返り責務を果たしていかねばならないことを痛感しました。

正月は、年齢に関係なく心のときめき、清々しさを感じ、新たな希望をかきたててくれる節目でもあります。
しかし、最近の私たちを取り巻く状況は厳しさが増すばかりであり、内外の政治、経済、社会情勢、どれをとっても将来に対する不安、不信、先行きの不透明感が充満して閉塞感に覆われています。
国難ともいうべき東日本大震災は、今までの国のあり方を根底から大きく転換しなければなりません。私たちは1日も早い復興・復旧を願い、被災地に笑顔が戻るのを願うばかりです。
そんななか、国民の9割以上が「幸福」と感じているブータンの、若き国

王夫妻の来日には、一服の清涼感と、心の安らぎを覚えました。
一方、町内においては、昨年は大きな災害もなく、町政においても計画どおり、そして着実に成果を上げました。最大の懸案である新庁舎建設についても着工目前です。
新しい年を迎えるに当たり、町議会も決めたこと、決められたことは守り、選良された議員として、町民の負託と期待に添うべく、心を新たに「山都町」の躍進の年になるように一丸となつて取り組みなければなりません。
みなさまのご健康とご多幸を心からお祈りして、私の年頭のご挨拶とします。



山都町議会議長 藤川 憲治



平成24年 山都町



晴れの門出を迎えた新成人

郷土の誇りと希望を胸に新たな決意

新成人にとって、大人の社会への仲間入りを自覚するための成人式。
人生の節目を迎えたこの日、山都町ではそれぞれの思いを胸に込めて対象者の約83%にあたる151人が町内外から出席しました。



清和地区の新成人の皆さん

- ①立派に成人式を迎えた教え子たちと記念撮影する大森貴矢さん（前列中央）
- ②友人との再会を喜び合い、たくさんの写真を撮り合っていました。
- ③式典後、実行委員会によるビンゴゲームなどで会場は和みました。
- ④新成人を代表して、誓いの言葉を述べた本田和幸さん（左）と森島千鶴さん。

晴れ着姿に彩られた 新成人の華やかなつどい

山都町の新成人を祝う式典が、1月4日に矢部保健福祉センター千寿苑で開催されました。各自この日のために用意した晴れ着に身を包み、町内外から151人が出席。会場では仲間との再会に歓喜

の声が続え、懐かしい顔を見つけては写真を撮り合ったりしていました。

式典では、新成人代表の吉本公栄さん（島木）と有働咲良さん（橘）に成人証書が授与されました。続く新成人による誓いの言葉では、本田和幸さん（白小野）と森島千鶴さん（御所）が二人ひとりが社会の一員であることを自覚し、選挙への積極的な参加や交通ルールの遵守を約

束します。また、家族や周囲の方々に感謝し、命の大切さを心に念じて一生懸命生きていきます。」と宣誓しました。式典終了後は、成人式実行委員会による「お楽しみ会」が実施され、豪華商品があたる抽選会などで会場は盛り上がりました。

会場には、彼らの恩師も駆けつけていました。蘇陽中学校で3年間担任した大森貴矢さんは「これから責任感を持って、仕事も遊びも楽しんでほしい。」と教え子の成長に目を細めながら、はなむけの言葉を贈りました。



蘇陽地区の新成人の皆さん



浜町地区の新成人の皆さん



下矢部・御岳地区の新成人の皆さん



中島・名連川・白糸地区の新成人の皆さん

商店街に元気を運ぼう

しん うちょう

新裏町ソラ屋 オープン

浜町商店街新町通りの裏通り、通称「新裏町」。

ここに、商店街活性化の起爆剤となるような新しい形態のシヨップ「新裏町ソラ屋」がオープンしました。



全国の商店街が抱える「高齢化」「後継者不足」「空き店舗の増加」。ここ浜町商店街でも同様です。しかし、この現状を打破し、商店街にかつての賑わいを取り戻そうと活動している「山都町中心市街地活性化協議会実行委員会（坂田篤彦委員長）」が、(株)まちづくりやべと手を取り合って新しい試みを始めました。

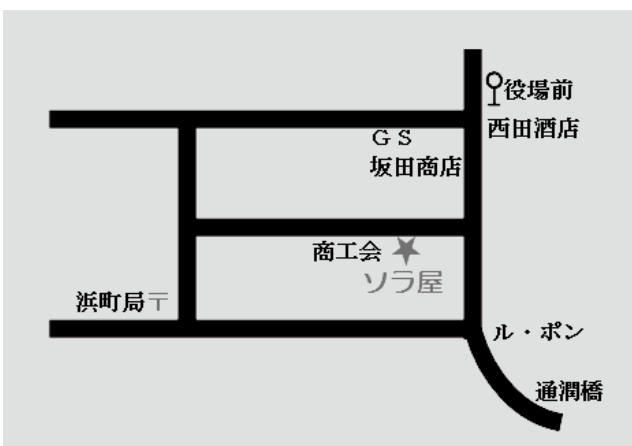
その舞台に選ばれたのは、使われていなかった新裏町にある病院病棟跡。病院跡というその独特な雰囲気を活かして、店を持ちたいと願う「チャレンジャー」に病院の個室だった場所を提供。一つの建物の中に、多種多様なミニシヨップを開こうというものです。

このミニシヨップを足がかりにして、商店街に点在する空き店舗への出店を導こうとする、まさに商店街に元気を運ぼうとする企画です。

12月17日に行われたオープニングセレモニーには、たくさんの来店者があり、この「ソラ屋」に寄せる期待の大きさを物語っています。

「ソラ屋」に入るシヨップは次のページに掲載しています。得意分野を活かして活動する、個性的なお店ばかりです。浜町商店街に新たな風を運ぶ「ソラ屋」にご期待ください。

各店の営業日など、詳しくは(株)まちづくりやべ企画事業部（電話72-11723）までお問い合わせください。



「新裏町ソラ屋」はここに 있습니다。



中心市街地活性化協議会実行委員会の坂田篤彦委員長

5号室 ★mama's なでしこCafe



「山都なでしこ」が作る山都町産の野菜と安心素材を使った手作りおやつのカフェとmama's 達の作る手作りバッグや小物がお待ちしています。

【OPEN】
2月10～13、20、21日

3号室 ★足もみ屋さん ほのぼの（若石健康法）



足をもんで元気になるしましょう！
足裏をみて、健康になるためのアドバイスをします。スポーツ選手や転びやすい人へおすすめの靴下も販売しています。

【OPEN】
2月6、10、11、13、20、27日

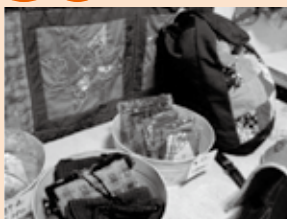
2号室 ★るい工房



押し花・ガラスアート・レカンフラワーアレンジの「るい工房」。「創造展」（押し花の国際公募展）でも入賞歴のある木原晴栄さんのお店です。
作品の展示販売、押し花のはがきや葉など体験もできます。※教室もあります。

【OPEN】
2月6、10～13、20、21、27日

1号室 ★ミシンキルト「清美心」



ポーチやバッグ、こたつ掛けなど店主が心をこめて作ったパッチワークのお店です。
國武賢聖さんの叙情あふれる水彩画も展示販売しています。「描いてほしい！」という方は気軽にご相談下さい。

【OPEN】
2月6、10～13、20、21、27日

矢部高校の部屋



県立矢部高校生が心を込めてつくる作品を展示販売する部屋。2月の出店予定はありませんが、3月以降、「ゆずマーマレード」などの加工品や、「シクラメン」などの生花を販売する予定です。

【OPEN】
出店未定

チャレンジショップ 新裏町ソラ屋 soraya

ソラ屋にきて、各店をのぞいて、体験してみてください。楽しいひとときが過ごせます。

ここでは2月の出店予定をお知らせします。（変更される場合もあります。）

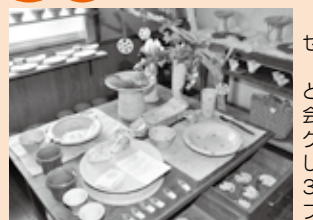
8号室 ★ミドルレディース



各種イベントでおなじみの地元新町通り商店街の女性グループ・ミドルレディースのフリーマーケットが「ソラ屋」にも出店します。

【OPEN】
出店未定

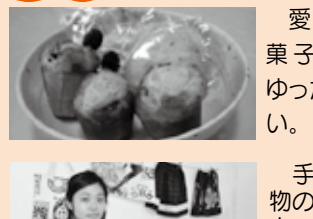
7号室 ★みころる（エムクラフト）



エムクラフト池田美穂さんのセレクトショップ。
“みころる”とは、「私の色」という意味。店主がこれまで出会った素敵な作品（陶器・バッグ・アクセサリなど）を紹介し販売する店。本格オープンは3月です。それまではエムクラフトの陶器を中心に展示します。エムクラフトの陶器は、結婚式の引き出物などにも喜ばれます。

【OPEN】
出店未定（3月1日正式オープンのため）

6号室 ★プニプニ／★手作り帽子・弥雪



愛情あふれる手作りお菓子和パッチワークでゆったりとお過ごしください。

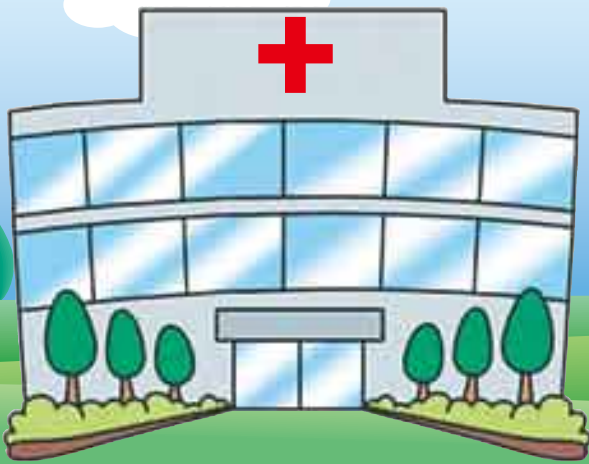
手作りの帽子、生活小物の店。洋服補正・リフォーム・着物やデニムのリメイクもします。ビーズ作品も展示販売しています。

【OPEN】2月10～13日

ソラ屋オープン時間 午前11時～午後5時

※営業日は各店で違います。
全室オープンしているとは限りません。

入口



蘇陽病院だより

～蘇陽病院基本理念～

「へき地医療拠点病院として、患者様に信頼される良質な医療を提供し、地域住民に親しまれる病院を目指します。」



年頭のごあいさつ

平成 24 年が明けました。町民の皆様は穏やかなお正月を迎えられましたでしょうか。

昨年は、世界中でいろいろな難しく悲しい出来事がたくさんありました。とりわけ日本ではまさかと思われるような、人命に関わる大災害大事故がおきてしまいました。我々は東北の方々に末永く心を寄せ、支えてゆく活動が必要ですし、日本人の中に絆と連帯感の重要性が再確認された年でもありました。そんな中、当院スタッフも旧年にも増して、皆さまから信頼される病院となるよう努力する決意を新たに、新鮮な気持ちでスタートを切りました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、私が赴任して 4 年が経過しますが、この間「地域に親しまれる病院」を目指し、へき地医療と救急医療を基本とした地域包括医療の充実に邁進してまいりました。そして皆様のご理解とご支援を頂き、念願であった新病院の建て替えを昨年 9 月に着工することができました。工事は順調に進み、現在は基礎から一階部分のコンクリート工事を行っています。甲斐町長が描く「病院らしくない病院」「古いも若いも、病人も健康な人も集える病院」が今年の秋口には完成するものと思われます。しかし、「仏作って魂入れず」ではいけません。そうならないように、医療内容とサービスの充実をなおいっそう進めるように、職員一同頑張っけてゆく所存です。

皆様もお聞き及びかと思いますが、山都町の医療機関はどこでも、医師をはじめ薬剤師、レントゲン技師、看護師などの専門職が不足しています。特に医師不足は全国的に大変深刻な問題になっています。われわれも様々な方法でスタッフを集めていますが、これからは住民の皆様にも地元の医療機関を支える一員として、お知り合いやご親戚などのネットワークを駆使し人材をご紹介いただけたら幸いです。

地域住民とともに山都町を住みよい郷土にしてゆくように、医療の面から頑張っけていきますので今年もよろしくお願いいたします。

山都町立蘇陽病院 院長 水本 誠一



第39集 「食道がん」外科手術と放射線治療について

山都町立蘇陽病院 医師 末綱 靖

今回は食道がんの治療についてです。食道がんも他のがんと同様、各種検査の結果を総合的に評価して、進展度や全身状態から治療法を決めます。食道がんの治療には大きく分けて、4つの治療法があります。それは、内視鏡治療、手術、放射線治療と抗がん剤の治療です。その他に温熱療法や免疫療法などもあります。早期がんには内視鏡治療が広く行われており、またある程度進行したがんには、外科療法、放射線療法、化学療法を組み合わせ、これらの特徴を生かした集学的治療が行われます。

外科療法

手術は身体からがんを切り取ってしまう方法で、食道がんに対する最も一般的な治療法です。手術ではがんを含め食道を切除します。同時にリンパ節を含む周囲の組織を切除します（リンパ節郭清）。食道を切除した後は食物の通る新しい道を再建します。食道は頸部、胸部、腹部にわたって、それぞれの部位によりがんの進行の状況が異なるので、がんの発生部位によって選択される手術方法は異なります。

(1) 頸部食道がん

がんが小さく頸部の食道にとどまり、周囲へのがんの広がりもない場合は、のどと胸の間の頸部食道のみを切除します。切除した食道の代わりに小腸の一部（約10cm）を移植して再建します。なお、移植腸管は血管を頸部の血管とつなぎ合わせる必要があります。のどの近くまで広がったがんでは頸部食道とともに喉頭を切除し、小腸の一部を咽頭と胸部食道の間に移植します。そして気管の入口を頸部の最下端中央につくります。喉頭を切除するため声が出せなくなります。

(2) 胸部食道がん

原則的に胸部食道を全部切除します。同時に胸部のリンパ節を切除します。胸の中にある食道を切除するために、右側の胸を開きます。最近では胸腔鏡を使って開胸せずに食道を切除する方法も試みられていますが、その有効性はまだ検討段階です。開胸を行わずに頸部と腹部を開き食道を引き抜く方法（食道抜去術）もあります。この方法では食道の周囲のリンパ節を切除できません。食道を切除した後、胃を引き上げて残っている食道とつなぎ、食物の通る道を再建します。胃が使えないときには大腸または小腸を使います。胃や大腸・小腸を引き上げる経路により、前胸部の皮膚の下を通す方法・胸骨の下で心臓の前を通す方法・もとの食道のあった心臓の後ろを通す方法の3とおりがあり、それぞれの病態により選択されます。

(3) 腹部食道がん

左側を開胸して食道の下部と胃の噴門部を切除します。左側の開胸による手術は胸部・下部食道がんで肺機能の悪い人にも行われます。

(4) バイパス手術

がんのある食道をそのまま残して食物の経路を別につくる手術です。胃を頸部まで引き上げ、頸部で頸部食道とつなぐ方法です。この手術は根治をあきらめ、一時的にでも食べられるようにとQOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活の質）の向上をめざしたものです。

外科療法の合併症

手術に続いて発生する合併症は肺炎、縫合不全（つなぎめのほころび）、肝・腎・心障害です。これらの合併症が死につながる率、すなわち手術死亡率（手術後1ヵ月以内に死亡する割合）は2～3%です。これらの発生率は、手術前に他の臓器に障害をもっている人では高くなります。

放射線療法

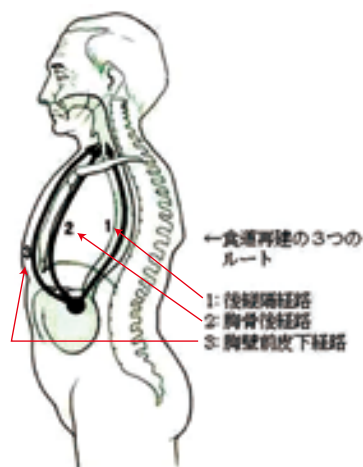
放射線療法は手術と同様に限られた範囲のみを治療できる局所治療ですが、機能や形態を温存することをめざした治療です。高エネルギーのX線などの放射線を当ててがん細胞を殺します。放射線療法には2つの方法があります。放射線を身体の外から照射する方法（外照射）と、食道の腔内に放射線が出る物質を挿入し身体の中から照射する方法（腔内照射）です。また、放射線療法は治療の目的により大きく2つに分けられます。がんを治してしまおうと努力する治療（根治治療）と、がんによる痛み、出血などの症状を抑えようとする治療（姑息治療）です。

(1) 根治治療

根治治療の対象は、がんの広がり方が放射線を当てられる範囲にとどまっている場合です。根治治療の放射線療法は、外照射だけを週5日6～7週続けるやり方と、外照射5～6週に2～3回の腔内照射を組み合わせるやり方があります。最近、放射線療法と抗がん剤治療を同時に行うほうが、放射線療法だけを行うより効果があることがわかってきました。放射線療法に抗がん剤治療を加えることで手術をしなくても治る患者さんが増えたという報告もあります。治すことをめざして治療をする場合は、放射線療法と抗がん剤治療を同時に行うことが勧められます。

(2) 姑息（こそく）治療

姑息治療は骨への転移による痛み、脳への転移による神経症状、リンパ節転移の気管狭窄による息苦しさ、血痰などを改善するために行われます。症状を和らげるために放射線は役に立ちます。症状がよくなれば目的は達成されるので、根治治療のように長い期間治療しません。2～4週くらいの治療です。





第11集 血液をサラサラにする薬について

山都町立蘇陽病院 薬剤科 奥村真利子

監修 院長 水本 誠一

動脈硬化などが原因で血管が傷つくと、傷ついたところに血栓（血のかたまり）ができて、血管をつまらせたり血管からはがれて血管をふさいだりします。また、血のめぐり（ながれ）がわるくなると血栓ができやすくなります。そこで、血栓の治療や予防のために「血液をサラサラにする薬」が用いられます。

血液をサラサラにする薬は、「抗血小板薬」と「抗凝固薬」の2つのタイプがあり症状によって使い分けられています。

- 抗血小板薬（代表的な薬：バイアスピリン錠、プラビックス錠、パナルジン錠など）
- 抗凝固薬（代表的な薬：ワーファリン錠など）

「血液をサラサラにする薬」には

- ・出血しやすい、または出血したとき止まりにくいという副作用（鼻血、歯ぐきからの出血、皮膚の内出血など）があります。
- ・検査や手術、抜歯をする場合には、出血を防ぐために薬を服用しない期間が必要になる場合があります。

このような場合には、必ず主治医に伝えてください。



ワーファリンを服用する時に注意すること

- ・薬との飲みあわせで、効果が強く現れたり弱まったりして、期待した効果が得られないことがあります。主治医以外の医師を受診するときや、薬局で薬を買うときは、必ずワーファリンを服用していることを伝えてください。
- ・主治医は、ワーファリンの効果をみるために血液検査をして服用量を決めます。指示通りに服用しないと正しい服用量が決められません。必ず指示通りに服用してください。
- ・納豆・青汁・クロレラは、ワーファリンの効果を無くしますので、絶対に食べないでください。緑黄色野菜はとくに制限しなくてもよいのですが、一時的に大量に摂取することは避けてください。
- ・歯ブラシは柔らかめのものを使い、ひげ剃りには電気カミソリを使われることをおすすめします。また、けがなどをしないように注意してください。

保健だせんたより

Vol.8

子どものころから気をつけよう

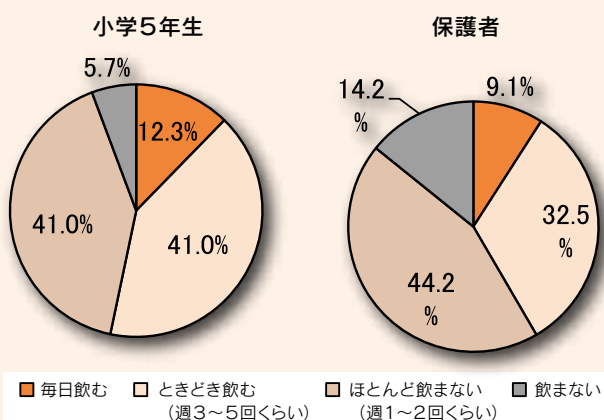
町内の小学校で小児生活習慣病予防教室

山都町は高血圧、糖尿病、脳梗塞、虚血性心疾患といった生活習慣病で治療している人が多くいます。昨年の健診結果でも、血糖値が高い糖尿病予備軍の人が全体の約8割もいました。この状況を改善するため、子どもたちが将来生活習慣病にかからないよう、学校の協力を得て小学5年生に小児生活習慣病予防教室を実施しています。

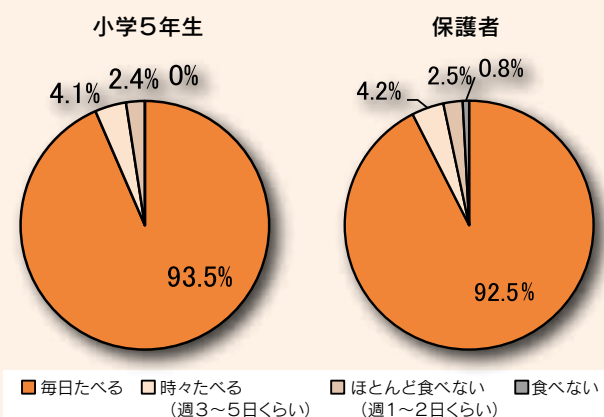


アンケート結果

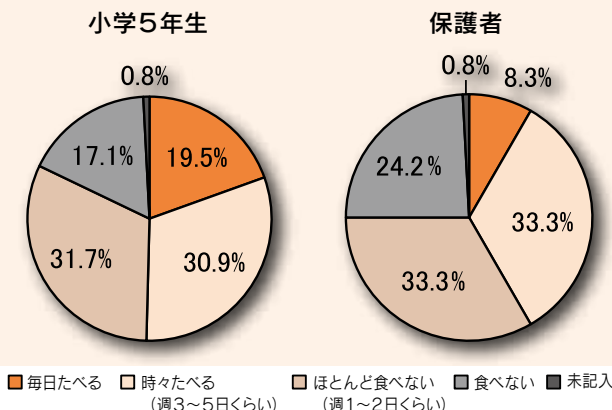
●ジュースを飲みますか



●朝ごはんを食べますか



●夕食を食べてから寝るまでの間に飲んだり食べたりしますか



この生活習慣病予防教室では、担任の先生と養護の先生が患者役と医師役になり診察の寸劇から始まります。その後、保健師による糖尿病についての基礎知識、栄養士による食品に含まれる砂糖の量と、赤・黄・緑3色そろったバランスの良い食事の摂り方について、サンプルを使いながら説明します。

甘いものの代表としてジュース類があります。生活習慣のアンケートでは、ジュース類を『毎日飲む』『時々飲む』と答えた人は小学5年生で5割、保護者で4割いました。1日に摂取してよい砂糖の量は、子どもは10g、大人は20gです。一方、ジュース1本(500ml)に含まれる砂糖の量は約60g、缶コーヒー1本(190ml)では17g、スポーツ飲料1本(500ml)は30gあります。授業後の感想では、「ジュースやスポーツ飲料にたくさん砂糖が入っているなんて知らなかった」「スポーツ飲料は水で2倍に薄めて飲みたい」「3時のおやつは食べすぎないようにしたい」などがありました。

この教室を行う前に、5年生とその保護者にアンケートを行いました。朝食は小学5年生、保護者とも『毎日食べる』と答えた人が9割以上でしたが、中には『週1～2回位食べる』『食べない』と答えた人もいました。また、夕食から就寝までの間食については、『毎日食べる』『時々食べる』と答えた人が子どもでは約5割、保護者では約4割いました。間食の内容は、子どもは牛乳、アイス、お菓子など、保護者はお菓子、果物、なかにはアルコールもありました。

授業の最後は、アンケートの結果を参考にした話しをしました。朝・昼・夕の3食をしっかりと摂ること、寝る前の間食は血糖値を上げる原因になるため食べないことなどを話しました。

予防教室のあと、子どもたちに感想を聞くと、「甘いものを食べすぎると生活習慣病になるから気をつけたい」「糖尿病についてわかった」「砂糖をたくさんとってはいけないと分かった。僕たちが食べてよい砂糖の量がわかった」「これからは自分の好きな食べ物だけ食べることはやめたい」など、意識の変化があったようです。このアンケートの結果は、小学5年生も保護者も大きな差はありませんでした。大人の生活習慣が子どもに影響していると考えられます。子どものころの生活習慣は将来を左右します。これから山都町を担う子どもたちが病気にならないよう、この機会に家族で生活習慣を見直してみましょう。

まちの話題

各地でどんどや

小正月である1月15日前後、町内各地で正月の伝統行事であるどんどやが行われました。通

潤橋前で1月14日に行われたのは、浜A自治振興会（松岡昭二



会長）主催のどんどや。

役員の方々がその準備に2日かけたという大きなどんどやは、午後1時に火がつけられると、たちまち勢いよく燃え上がり、竹の「パンツ」とはじける音が周囲に響き渡りました。会場では浜A地区婦人部「ミドルレディース」によるぜんざいやかつぼ酒などが振る舞われ、正月のしめ飾りを持って訪れた地域の方々や、さらには通潤橋を見にきた観光客の方々も温かいもてなしを受けていました。

おいしい米はいかがですか？

清和小学校では、県教育委員会から「環境教育研究推進校」の指定を受けて教育研究が進められています。同小5年生16人は「食」をテーマにアイガモ農法の米の栽培に取り組みました。12月16日、その収穫した米20kgの販売を道の駅清和文楽邑物産館で体験しました。自分たちでデザインした袋に500gずつ入った安心安全な米を、「おいしい米はいかがですか〜！」と訪れた観光客にPRしていました。



清和小5年生のみなさん

御岳小でもちつき大会

12月16日、御岳小学校で、児童が楽しみにしていたもちつき大会が開催されました。春から稲作体験を行ってきた児童は、その最後の作業であるもちつきを、保護者や地域の方々と一緒に体験しました。収穫したもち米30kgを使い、昔ながらの石うすときねで丁寧についたもちは、学校の給食用や鏡餅用など約150個になりました。また、つきたてのもちをみんな味わいました。



もちつきは大変です。

たくさんさんの「愛」集まりました

山都町老人クラブ連合会蘇陽支部（下田澄雄支部長）から、今年も社会福祉協議会（甲斐利幸会長）へ「愛の1円玉募金」が贈呈されました。同支部が4月から12月の間、竹筒や牛乳パックなどを加工した募金箱を各世帯に配布し、募金を呼びかけているもので、今年で17年目を迎えました。今年は294,304円の募金が集まり、12月21日、山都町社会福祉協議会蘇陽支部で、下田支部長から甲斐会長に目録が贈られました。



甲斐会長へ募金目録を贈呈する下田支部長（左）

田小野 収納祭

12月23日、田小野公民館（野口洋一分館長）主催で「田小野収納祭」が行われました。地元で採れたもち米30kgを使ったもちつきは、田小野地区の小学生と保育園児約15人、そして地域の方々が交代でつきました。また、地区老人会によるしめ縄づくりと役員による門松づくりも行われ、公民館に新年を迎える準備が整っていきます。午後には子ども会からの出し物などの忘年会とクリスマス会も行われました。



おいしいもちが出来上がりました。

学童 保育 映画会

12月27日、潤徳小学校の学童保育「どんぐり楽校」の映画会が町立図書館で行われました。今回子どもたちの輪が広がればと、町内の学童保育クラブへ参加を呼びかけたところ、御岳小と蘇陽小の学童保育クラブから参加があり、保護者などを含め約50人が映画「少年マイロ火星冒険」を楽しみました。参加者には「どんぐり楽校」の子どもたちから特製しおりがプレゼントされました。夏に同様のイベントが企画されるそうです。



会の進行はどんぐり楽校の子どもたち

下名連石ふれあい祭り

今年で19回目を迎えた「下名連石新春ふれあい祭り」（下名連石自治振興区主催）が1月9日に開催されました。会場となった旧下名連石小には、地区内のたくさんの方々が集まり、新年のあいさつなどを交わしていました。祭りでは、青壮年部の獅子舞や新婚さん紹介などのほか、恒例となった年男・年女が扮した七福神の豆まきが行われ、七福神がまいた「福豆」で福をもらおうと、会場内はおおきに盛り上がりつつありました。



七福神がみんなに福をおすそ分け

大山謙一郎さんギャラリー開設

大山謙一郎さん



1月10日、北中島出身の写真家、大山謙一郎さんのギャラリーが、大矢野原演習場そばに開設されました。ギャラリーには、山都町や熊本市、東日本大震災の被災地で撮られた写真など1年前から撮った作品約150点が展示されました。大山さんは、「山都町だからできる新しい情報を発信していきたい」と話してくれました。

通潤山荘に竜の絵馬

絵馬と関係者の方々



12月21日、男成神社から通潤山荘に「絵馬」が寄贈されました。絵馬には今年のえとである竜が力強く描かれています。男成神社では、8年前からその年のえとを描いた絵馬を通潤山荘に毎年寄贈していて、昨年町社会教育指導員の伊藤一善さんに制作を依頼しています。贈られた絵馬は通潤山荘玄関に飾られています。

千寿苑にしめ縄



渡邊盛芳さんとしめ縄

12月26日、渡邊盛芳さん（北中島）から、矢部保健福祉センター千寿苑にしめ縄が寄贈されました。寄贈のきっかけは、渡邊さんが、社会福祉協議会の子どものデイサービスで、しめ縄作りの講師を務めたことでした。力強い大きなしめ縄が玄関に飾られ、豪華に新年を迎えた千寿苑でした。

野口さん、ふるさとの論文で博士号

野口慎吾さん



野口慎吾さん（白小野）が、熊本県立大学大学院卒業後、自分の生まれ育った山都町を研究対象とした「住民の主体的行動と農村集落における空間管理システム」という論文をとりまとめ、博士号を取得しました。その記念講演会が12月11日、本さつまやで行われ、たくさんの来場者を前に、論文について講演しました。

わたしたちの人権

83

子どもたちの人権作文

12月の人権旬間にあわせて、子どもたちが書いた人権作文の中から、5人の作品を紹介します。(14・15ページに続きます。)

だれもが人間として生きていくうえで侵すことのできない当然の権利これが『人権』です

お母さんありがとう

矢部小学校 1年 草野 優聖歩



この前、道德の時間に、お母さんから、手紙をもらいました。びっくりしました。読んだら、嬉しかったです。「ゆうせふは、お母さんの一番の宝物です。」と書いてありました。お母さんの笑っている顔を思い出しました。

お母さんに、返事を書きました。書いていたら、お母さんが僕のためにしてくれていることが、いっぱい出てきました。僕は、「ありがとう。」といっぱい書きました。

でも、「ごめんね。」と一つだけ書きました。怒られても言うことを聞きませんでした。返事を書いていたら、僕

のために言ってくれているんだと思いました。

「さるとかに」の勉強をしました。先生が、「このかに達は、何だと思いますか。」と聞きました。僕は、「家族だ。」と思いました。「このかにが、お母さんだったらどうしますか。」と、先生が聞きました。「石をどかしたい。」と発表しました。発表していたら、涙が出てきました。一人でどかせられない時は、友達を呼んで、一緒にどかしたいと思いました。

僕は、一人の友達を呼びにいくと思いました。

二学期に、僕は、友達に嫌なことを言われました。僕は、「言わんで。」と言ったけど、やめませんでした。僕は、「なんで言うのと。」と言いました。友達は、やめました。友達は、前より優しくなりました。前より一緒に遊ぶようになりました。

僕は、「せんで。」「なんで言うのと。」と言ってよかったと思いました。一匹のかにと同じだと思いました。僕が怒って言ったことを、友達が分かってくれたと思いました。

だから、友達を、呼びに行こうと思いました。これからも、嫌なことがあつ

たら、言っていきたいです。一人で言えない時は、友達と一緒に言っていきたいです。

とよきちやお父さん

みたいになりたい

御岳小学校 3年 藤岡 凌馬



僕たちは、こんぴらさんの相撲の勉強をしました。相撲大会の時、横村を見なくていいように、幕をはりまわしていたのが、おかしいと思いました。

相撲大会に来ている人たちは、横村を見たら不幸になるみたいになっているのが、汚いものみたいになっているのが、僕は、おかしいと思いました。横村だ

けを仲間外しにしていると思いました。

相撲大会で、おけやの息子が怪我をした時、横村のせいにして、とよきちが袋だたきにされたのが、一番腹が立ちました。怪我をしたのは、自分のせいなのに、とよきちや横村のせいになっているのがおかしいと思いました。横村の人たちを「やつ」と言ったりして、ばかにしているのが、腹が立ちました。とよきちは、「こぎゃん、まちごうたしやばは、許さんぞ。」と、怒りました。僕は、絶対許さんぞと思っていると思いました。そして、とよきちと僕のお父さんは、同じだと思いました。

僕のお父さんは、役場の仕事をしています。今は、教育委員会の仕事です。この前、みんなで、教育委員会に仕事場探検に行きました。ゆうと君が、「どうして役場の仕事を選んだのですか。」と、質問しました。お父さんは、「小さい頃から、正義の味方になりたかったからです。役場は、町の人たちを助ける仕事。町の人の幸せのために働く仕事。カッコいいでしょ。」と言いました。僕は、始め、

お父さんの仕事には興味がなかったけど、話を聞いて、役場の仕事は、正義の味方なんだと思いました。かつこいいと思いました。

お父さんが役場に入ってすぐの仕事は、隣保館だったそうです。周りの人から、「役場に入れてよかったね。でも、隣保館なら、大変ね。」と、たくさん言われたそうです。そして、字を書けないおばあちゃん達に出会い、とてもシヨックを受けたそうです。お父さんが、「りようまは、字を書けることは、当たり前だと思うと。お父さんも、そう思うと。だけど、差別のせいで、字を習うことさえできなかった人が、たくさんおられた。」と言いました。お父さんは、こんなおかしいことはなくしていきたくない、なくしていくのは、役場に勤める自分の仕事だと思って、みんなで解放研を作って、今でも勉強を続けているそうです。だからお父さんは、毎年、5・23集会にも行くのだと思いました。

こんぴらさんに行って、加藤先生から話を聞きました。話を聞きながら、横村だけ役場にかまってもえなくて、あとまわしにされていたのが腹が立ちました。お父さんの言葉を思い出しながら聞きました。役場が差別していたら、町の人みんなの幸せのためにはならないと思いました。

おかしいことをなくそうと思って、自分から行動したお父さんやとききが、僕はすごいなと思いました。僕もそんな人になりたいです。

「感謝」

矢部高校2年

齋藤

奈葉



私の家族は、母と弟と私の三人です。私は幼い頃から母子家庭で育ち、母は昼も夜も仕事をしています。私は、今年で17歳になりましたが、このように成長してこられたのは、家族の支えがとても大きいです。

物心ついた頃には、今のような三大家族だったので、もちろん父の存在というのをはつきり感じたことはありません。記憶されている父の顔は写真で見た顔です。父がいなかったらといって寂しいと感じたことは昔も今もありません。しかし、最近になつて独り部屋に居るときに、お父さんがいたら私はもつと違う自分に成長していたかなとか、私にもお父さんがいるんだよね、などと思うことがあります。それを思うときも、寂しさを感じません。むしろ心の中は無です。今の自分自身が嫌いなわけでもなく、どんな事情で母と別れたからといって心から憎んでいるわけでもありません。母は今まで、二倍の愛情を私と弟に注いでくれました。

ただ、父という存在がもし今あったとしたら、母はもつと苦勞せずに済むのかなと考えることがありました。それは多分、父がいるかないかなんて関係なくて、私の甘えから思い浮かんだ言葉かなと思います。

高校に入学して、毎日の進むスピードがものすごく速く感じました。私は時間を上手く使うことが苦手で、部活と勉強の両立が、自分では満足するラインにいたっていませんでした。疲れがたまり、家の手伝いや朝から弁当をつくるのがおっくうになり、弟が反抗期に入つたからかケンカが多くなつたりしました。こうやって文章にしてみると、さらに自分に腹が立ちます。こんなことで母に甘えているからです。社会に出て二つも職を持ち働いている母の疲れとは比べようがありません。私は好きで学校に行つて勉強しているのだから、簡単に逃げようとするべきではありません。それに私は、大学進学を目標にしているの、これから先数年間を母に支えてもらいながら、生きていく可能性があります。だから私は、今よりもつと母を大切にすべきなのです。今まで何度か母への感謝の気持ちを作文にしましたが、今回の作文で、自分では思っているより感謝を実際に表現できていないことに気づき、まだ感謝が足りていないことを思い知りました。また、私と弟にかけてくれた母の思いや気持ちは、私達が自分の子供を持ち、親となつて初めて理解できるのだと思います。私は将来そのうなつたとき、さらに母への感謝の気

持ちを抱くでしょう。

はじめに紹介したとおり、私には二つ年下の弟がいます。弟とは割と仲がよい方です。しかし、弟も成長するにつれ、変わってきました。長期間がみ合つて、母を困らせることもしばしばあります。私は弟にとつて手本でありたいと思いつつ生活してきました。だから私が今のようになれた部分もあります。しかし、時々それがあだとなつてしまうことがあります。例えば、勉強においてです。弟はあまり先のことを気にせず、結果が出せなくても不安にならないのか、努力しようとしません。私はそんな弟を見ると腹が立つてしまいます。ある日、母がそんな弟を見かねて叱ると「おねえちゃんと一緒にしないで」と言いました。私はこの言葉を聞いて悲しく思いました。私が努力せずやってきたように聞こえたからです。つまり、弟にとつて私は比較の対象となつてしまうことがあります。私は弟にそんな風に思つて欲しくありません。

最近、よくこんな弟の態度に対して、腹を立てケンカをしてしまいます。弟にはもつと自分の良さを見いだして欲しいです。弟は優しく、他人の意見を尊重できるという長所があります。私はこれをとても良いことだと思っています。私は姉弟で互いに成長し生きてきたことを弟に感じて欲しいです。母が私と弟によく言う言葉があります。「二人しかいない姉弟なんだから。」この意味をよく理解し、いつまでも仲の良い家族でありたいです。

「走る図書館 わくわく号」 がやってくる!



図

だ

書

よ

館

り

声の灯り

52



工藤愛菜さん(左)と山崎咲さん(右)と「わくわく号」

山都町立図書館に移動図書館車が導入されました。白い車体には、太陽と虹と雲のあたたかなイラストが描かれ、「はしる図書館 わくわく号」の文字が光ります。この車両は「住民生活に光をそそぐ交付金」事業にて購入され、平成24年度には町全域を巡回して本などの貸し出し業務を行います。県内3番目の広さを誇る山都町において、移動図書館車の導入は不可欠でした。この導入により「住民ひとりひとりに良い本を届ける」ことを目標として活動をすすめてきた図書館は、目標の達成にまた一歩近づきました。

12月15日、清和総合支所で出発式がおこなわれました。出発式では、先に行われた名称・デザイン募集にて作品が選ばれたお二人も参列されました。名称は工藤愛菜さん(蘇陽小3年)の「わくわく号」、デザインは山崎咲さん(目丸)が応募された作品が選ばれ、それぞれ表彰されました。式後「わくわく号」は、最初の巡回場所である二瀬本地区へ出発しました。



Q & A

Q「移動図書館車って何？」

A 車に本棚を取り付けて 800 ~ 1000 冊の本を積み、図書館から遠くにお住まいのみなさんに本の貸し出しをします。いわば、小さな図書館です!

Q「1人何冊まで借りられますか？」

A 1人 10 冊まで、1ヵ月間借りることが出来ます。借りた本の延長貸し出しはできません。

Q「読みたい本を予約・リクエストできますか？」

A 本の予約・リクエストもできます。一冊の本をたくさんの方が予約された時はお待ち頂く事があります。

巡回日の一週間前までにご連絡ください。

☆その他ご不明な点がございましたら、お近くの図書館または教育委員会までお尋ねください。

図書館情報

一読書とはこころを耕すことです

●お問い合わせ

本館 73-1616

清和 82-3033

蘇陽 73-2755

休館日: 本館・蘇陽(月曜日・祝日・年末年始) 清和(GW・年末年始)

1月のおすすめ図書



「晩節―密命・終の一刀」

佐伯 泰英(さえき やすひで) 祥伝文庫 分類 913



佐伯泰英氏の代表作「密命」シリーズ第26巻です。図書館でも大人気のこの作品が、いよいよ最終巻を迎えました。陰謀の根源を絶つために再び動き出した金杉惣三郎と、将軍吉宗の密命を受けた息子清之助。死闘の果てに父と子が迎える結末とは。

「石原結實の体を温めて病気を治すレシピ100」

石原 結實(いしはら ゆうみ)

PHP 研究所 分類 498



冬の「体の冷え」はとっても辛いですね。「体の冷え」は病気の素とも言われています。毎日の食事に体を温める食材を使って「冷え」から抜け出しましょう。レシピはとっても簡単で、大人から子どもまで美味しく食べられますよ。

「週刊ブックレビュー 20 周年記念ブックガイド」

NHK サービスセンター 分類 019



あらゆるジャンルの魅力を紹介し、読者をより楽しく深い読書の世界へと誘ってきた「週刊ブックレビュー」。書評番組として20年続いてきた番組にはファンの方も多いと思います。「何か面白い本はないかな?」と思っていられっしやる方にお勧めのブックガイドです。

「絶対変わる! ウォーキング&ランニング」

運動嫌い! 経験ゼロ! でもうまくいく こんなにいいことがあるからみんなが走る

金 哲彦(きん てつひこ) 矢洲 ひろお(やす ひろお)

PHP 研究所 分類



寒い冬は運動不足になりがち。まずはウォーキングから初めませんか。また、今年は「熊本マラソン」も開催され、市民ランナーとして参加される方もいらっしゃるのでは? ランニングコーチの、楽しく走れる秘訣をぜひご一読ください!

12月24日図書館ホールにてクリスマス会を開催しました。大きなクリスマスツリーが輝く中、「日本拳法部」の高校生によるハンドベルの演奏で幕が開きました。ハンドベルの綺麗な音色にみんな引き込まれていきます。その後、「日本拳法部」の「型」の披露もあり、子どもたちは興味津々でした。手遊びでほったたをくっつけあったり、パネルシアターでサンタさんのプレゼントに喜んだり、紙芝居のお話に合わせて大きな掛け声をあげたり、手品で布に描かれた鶏から生卵が出てきたりと、クリスマス会は大盛り上がり。絵本の読み語り「ゆうかんなアイリーン」はとっても素敵なお話で、子どもも大人も静かに聞き入っていました。そして、鈴の音とともにサンタクロースが会場にやってくるとみんな大喜び! 素敵な絵本がプレゼントされました。また「矢部高校家庭科クラブ」手作りのプレゼントが全員に手渡されました。この日は「わくわく号」も会場で本の貸出をしました。雪が降り出しそうなほど冷え込みましたが、約100人の親子連れが来場し楽しいクリスマス会を過ごしたようです。



『サンタクロースがやってきた!』
山都町立図書館クリスマス会

子どもたちの人権作文

じぶんの気持ち

菅尾小学校 6年 黒木 くろき りみ



私は二学期に、西光万吉さんの差別との出会いと立ち上がりについて書かれた「人の世に熱あれ、人間に光あれ」を学習しました。万吉さんは、すんでいる村のことで何度も差別を受けてきました。差別されるたびに逃げていましたが、「同じ人間なのに、どうしてこんな差別を受けるのか。」と悩み、間違った世の中を変えるために勉強して、村の仲間と協力して全国水平社を立ち上げたのがすごいと思いました。

私は、「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」の「熱」とは「人の世の中に

温かい心を」、「光」とは「すべての人間が平等に接すること」だと思いました。

でも、私は一学期に学習した「なごこて腹んたつ」の良子さんが、いじめるみんなの前で「私をバスケのチーム分けに入れなかったのはどうして?」「私は、もう差別されるのはいやです。」と言って立ち上がったのもっとすごいと思います。理由は、万吉さんはみんなで協力して立ち上がったけど、良子さんはクラスのみんなに向かつて一人で立ち上がったからです。良子さんは勇気があるなと思いました。もしかしたら、もう言いたくてたまらない気持ちになったのかなと思いました。

私は、クラスで発表するとき、少ない人数なのに、やっぱり緊張します。私だったら何も言えずに逃げればっかりだろうなと思います。人には、

「はつきり言っちゃえばいいんだよ。」などと言ってるけど、自分は言えないので、いつも友だちに、

「人ごとだと思ってるんでしょ。」と言われてしまいます。私は、そんな自分はよわむしだと思いました。

私はこれから、友だちに言ってもかじやなくて、自分も人前で意見を言えるようになりたいです。できれば、一人じゃなくて仲間といっしょに言えるようになりたいです。

東日本大震災に学ぶ

清和中学校

3年 大塚 おおつか 呂玲 りょ



今年の三月、東北地方を中心に地震と津波による大きな災害がありました。死者、行方不明者は次の日、また

次の日と増えていきました。八ヶ月近くたった今でも行方が分からない方々がたくさんいらっしゃいます。東北の町では、次第に元に戻ってきているところもありますが、復旧や復興にかなりの時間が必要などころがあるのも事実です。私たちは、九州という、東北からとても遠い所に住んでいて、地震の被害もなければ、津波の被害もありませんでした。死者・行方不明者がどんどん増えていくのをテレビのニュースを見ても、なんだか遠い所のような気がしていました。しかし、そんな中私の父と母は、ニュースを見るたびに目を赤くして、

「被災地の方々は、テレビも見れないし、新聞もないから、周りがどんな状況なのか分からないんだよ。食料もないし、ガスも電気も水道もない。そんな中で頑張っているんだから、すごいんだよ。」

と言いました。なぜ、父や母が目赤くしてこんなことを言うのかというと、父と母は、私が生まれる前におこった『阪神淡路大震災』を経験していま

した。だから、その時のことを思い出して言ったのです。私は阪神淡路大震災のことを詳しく教えてもらいました。

震災が起こる前の夜は、姉を寝かしつけた後、父も母も普通に寝ました。真夜中に、すごい地ひびきと共に大きな縦ゆれが来ました。母は、急いで姉の寝ている小さなベッドにおおいかぶさり、父を呼びました。父は、ベッドの横の大きな洋服ダンスの下敷きになつて動けなくなっていました。その後、しばらくして、父は、その洋服ダンスの下からどうにか抜け出しました。地震がおさまり、一度外に出てみました。しかし、外は夜。真っ暗で何も見えませんでした。だんだんと朝日がのぼり、近所の人たちと両親は、目の前の光景にただ言葉を失いました。目の前には、昨日まであった、たくさんのビルの姿はなく、ただのさら地になつていました。両親の住んでいたアパートは一階がなくなっている状態でした。すっかり日がのぼると、父と近所の人たちは、建物の下敷きになつている人たを助けるために町中を歩き回りました。母は、まだ幼い姉を抱いて、アパートで待っていました。テレビも、ラジオも、携帯電話も使えない状態の中で、じっとしていることしかできませんでした。清和の祖母は、携

帯電話がつながらなかったのも、死んでしまったのかと心配していました。しばらくして、祖母と連絡が取れて、生きていることが確かめられました。その後、両親は、大阪の親戚の家に行き、しばらく住むことになりました。しかし、とても肩身のせまい思いをしました。阪神淡路大震災の時も、たくさんの支援金が集まったそうですが、その支援金の多くが町の復興のために使われ、被災者にはまわってこなかったそうです。そんな時に私の命が母のからだの中に宿り、その後私が生まれたので、故郷の山に囲まれた緑豊かな清和の村(邑)を思つて、「^{すみれ}邑玲」という名前がつけられました。

そんな話しを父と母から私は聞いて、東北の人々の苦しさ、今までより少しだけ分かった気がしました。体験しないと、つらさや苦しさは分からないと思います。私も、ずっとどこかで他人事だと思つていたんだと気づきました。募金活動などの応援すること、とても大切だと思いました。しかし、私は、父と母の話を聞いて、「忘れてはいけないうだ。この苦しい時を忘れずに、助け合つていかないうけないんだ。」と思いました。東日本大震災から、八ヶ月近くの時間が過ぎ、テレビのニュースでも毎日見ていたものが、毎日ではなくなりました。募金

活動なども増えたとは言えませんが。人々の頭の中からは消えようとしているかもしれないこの震災を、私だけでも、だれか一人でも忘れなければ、被災地の方々には救われるかなと思ひました。助けたいけど、直接私たちにできることは、ほとんどありません。だから、私たちは、今、ここに存在していることの喜びをのみしめ、一日一日を大切に生き、そして、東日本大震災のこと、この震災を通して学んだことや感じたことを忘れないようにしなければならなうと思ひます。

人権を考ふる町民の集い

12月6日、千寿苑で「人権を考ふる町民の集い」が開催されました。集いでは、ここで紹介する人権作文の発表に続いて、人権講演会が行われましう。

講演会では、大阪府高槻市人権まちづくり協会の岡本工介さんが、「虹をカタチに」をテーマにして生きる」と題して講演を行いました。同和地区に生まれ育つた岡本さんは、厳しい差別の現実から、生まれ故郷に対して否定的な考えを持つていました。しかし、祖父の死をきっかけに、自分のことを支え、受け止めてくれている地域の人の存在に気づき、故郷を誇りに思ふようになりましう。その後は、さらに多くの人とつながりを求め、国内外各地を訪問。旅の中から、それぞれに違ひを持つた人たちが心からつながるという「夢」を持ち帰りました。講演では、その夢を森にたとえて、「さまざまな木々によつて成り立つ森をみんなで育てましう。」と訴えました。



講演する岡本工介さん

藤嶋 大輔さん 世界大会で 2種目銀メダル

～ IWAS World Games ～



獲得した2個の銀メダル

藤嶋大輔さん（井無田）が、12月にアラブ首長国連邦で行われた、車いす使用者や上下肢切断者が競う障がい者スポーツ世界大会で、100m・走り幅跳び2種目の銀メダルを獲得しました。



藤嶋大輔さん（山都町役場清和総合支所勤務）

る、車いす使用者や上・下肢切断者を対象とした障がい者スポーツの総合競技大会。2011年はアラブ首長国連邦第3の都市シャルジャで12月1日～10日に開催されました。

大会2日目に行われた100m。藤嶋さんのエントリーはT44クラス（下肢切断）。4人が出場したこのレースで、2位でゴール。タイムは12秒76と自己3番目の記録を出しました。

4日目に行われた走り幅跳びは得意種目。藤嶋さんは5m18という今季世界ランク14位の記録を持っていました。しかし、ウォーミングアップ中に、幅跳び競技用の義足が壊れるというアクシデントが起こってしまいます。このため100mで使用した義足を急遽使用し、競技に臨みました。ウォーミングアップも試技も満足にできない状況のなか、藤嶋さん

はなんと自己ベストとなる5m20を跳び、見事銀メダルを獲得しました。「100mのタイムには満足していません。でも、大きな大会に出場することは大きな経験になる。」と語る藤嶋さん。今年ロンドンで開催されるパラリンピック。その最終選考会を兼ねる「九州チャレンジ大会」が3月に熊本市で行われます。「目標は2種目のオリンピック出場。厳しいが少しでも可能性があれば挑戦したい。」そう目標を話してくれた藤嶋さん。たくさんの方々に障がい者スポーツについて興味を持ってもらい、若い競技者が増えてほしいと望む藤嶋さんの、ロンドン出場への道が見えてきました。



走り幅跳び競技の藤嶋さん（写真は大会時）



100mの表彰式（壇上左から2人目が藤嶋さん）

上益城郡町対抗駅伝大会で山都町Aチームが優勝。これで山都町は3大会連続4回目の栄光を勝ち取りました。

区間賞を獲得した方々



中川京香さん
(3区)



橋本登志郎さん
(4区)



栗屋育太郎さん
(8区)



山都町 3連覇

～第36回上益城郡町対抗駅伝～

今年も、圧倒的な力を見せつけてくれました。12月18日に行われた、第36回上益城郡町対抗駅伝大会。今年は、昨年までの嘉島町、山都町のコースが変更になりました。今回のコースは、御船町役場をスタートし、嘉島町、甲佐町、御船町を経て、益城町陸上競技場をゴールとする、8区間34.6kmで、各町を代表する選手が健脚を競いました。

大会には、郡内5町から8チームが出場（山都町からはA・B2チームが参加）。山都町Aは、序盤から上位でレースを展開。2区でトップに立つと、3区中川京香選手と4区橋本登志郎選手が区間賞の走りで差を広げました。その後、一時甲佐町にトップを奪われましたが、7区藤本和秀選手の力走で再びトップに立つと、最終8区で、栗屋育太郎選手が区間賞の走り、後続を引き離し堂々のゴール。3連覇の偉業が達成された瞬間でした。2位の益城町Aチームに約1分半の差をつけ、1時間54分38秒という記録でした。



①



②

①御船町役場前を一齐にスタート②3区を走る中川選手。大会の優秀選手に選ばれました。③7区で再びトップに立った藤本和秀選手④歓喜のゴールの瞬間。8区栗屋選手



③



④

*優勝した山都町Aチーム（敬称略）

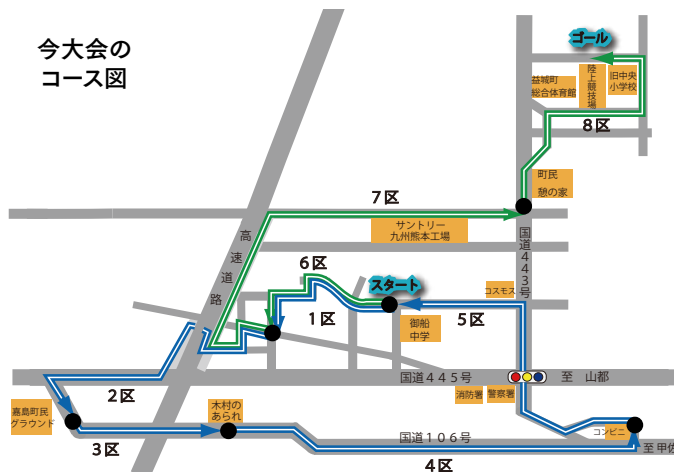
各区（距離）	選手名	タイム	区間順位
1区（3.3k）	西 隼人	10分57秒	4
2区（4.2k）	藤河 貴也	13分29秒	2
3区（3.1k）	中川 京香	10分20秒	1
4区（4.8k）	橋本登志郎	14分54秒	1
5区（4.7k）	大隈 草	17分40秒	8
6区（3.1k）	一瀬 遥香	11分23秒	4
7区（6.1k）	藤本 和秀	19分11秒	2
8区（5.3k）	栗屋育太郎	16分44秒	1

▼結果（総合）

①山都A 1時間54分38秒

②益城町A ③御船町 ④甲佐町A ⑤嘉島町 ⑥益城町B
⑦甲佐町B ※山都町Bはオープン参加

今大会のコース図



4月2日からパスポート申請・交付ができます。

県からの権限移譲により、山都町では平成24年4月2日申請分から旅券（パスポート）の申請・交付業務を開始します。

●取扱窓口

山都町役場 住民環境課 戸籍住民係
※総合支所窓口での申請・交付は行いません

●取扱時間（時間厳守）

【申請】月～金曜日 午前9時～午後4時30分
（ただし、祝日・年末年始を除く）

【交付】月～金曜日 午前9時～午後5時（ただし、祝日・年末年始を除く）

【交付までの期間】

申請した日から11日間（ただし、土・日・祝日・年末年始を除く）

●対象者

山都町に住民登録をしている人、または居所がある人

●申請に必要なもの

取扱窓口に備え付けの「一般旅券発給申請書」に次の必要書類を添付し戸籍住民係へ提出してください。

①戸籍謄（抄）本…1通

②住民票…1通（山都町に住民登録している人は省略できます）

※①、②ともに発行日から6ヶ月以内のもの

③旅券用写真…1枚（6ヶ月以内に撮影したもの）

④本人確認書類（運転免許証など）

⑤前回取得した旅券がある場合は、その旅券をお持ちください

●注意事項

4月2日から、県庁パスポートセンターをはじめとする県の旅券窓口での申請ができなくなります。

ただし、海外で親族などが病気、事故による死亡などにより緊急に渡航する必要がある場合などに限り、従来どおり県庁パスポートセンターを利用できます。

なお、3月30日までに県の窓口で申請した旅券（パスポート）は、4月2日以降であっても申請した県の窓口での受領となりますのでご注意ください。

一般旅券手数料

10年用（20歳以上）	16,000円
5年用（12歳以上）	11,000円
5年用（12歳未満）	6,000円

問い合わせ先：山都町役場 住民環境課 戸籍住民係 72 - 1172

山都町観光案内所 ギャラリー喫茶 ルポン

72-1054

2月のギャラリー

「第11回さんサンなかまの作品展」

町内の特別支援学級で学ぶ子どもたちの作品です。学習の中で制作した絵画、工作、手芸などを展示します。個性あふれる楽しい作品をぜひご覧ください。

平成24年2月3日（金）～28日（火）

肥料・飼料などの放射性セシウムの 暫定許容値が設定されました。

堆肥・土壌改良資材・培土 **400 ベクレル/kg**

飼料（牛・馬・豚・鶏・うずら用） **300 ベクレル/kg**

農地の汚染拡大防止と安全な農畜産物の生産のためにお願いします。

耕種農家のみなさんへ

暫定許容値を下回る堆肥・土壌改良資材・培土を使いましょう。

畜産農家のみなさんへ

暫定許容値を下回る飼料を使いましょう。

問い合わせ先：農林水産省（代表03-3502-8111）

矢部高野球部OB

憧れの甲子園に立つ ～マスタース甲子園 2011～



憧れの甲子園に初出場て初勝利を果たした矢部高野球部OBのみなさん

ついに甲子園の土を踏む夢が実現。矢部高校野球部OBが、憧れの「甲子園球場」で、当時のような輝く目で白球を追いかけてきました。

8月の県OB大会での優勝後から、昭和53年から10年間野球部を指導した桑野功監督のもとで、毎週1回の猛練習。矢部高野球部のグラウンドを借り、まとめ役の山本敏朗さんを中心に「怠慢プレーは叱咤」「好プレーは賞賛」をモットーにして、硬球に慣れるために、また現役時代に少しでも近づくために練習を重ねました。

そして迎えた12月24日の大会当日。兵庫県阪神甲子園球場に、先頭で入場行進した矢部高OB。プラカードを持ち選手を先導したのは、夏の甲子園でもプラカードを持つ、神戸市立西宮高校のOG。スタンドには神戸市立須磨翔風高校吹奏楽部の応援演奏。選手の心は否が応でも盛り上がります。

そして、試合開始。対戦相手は大阪代表の天王寺高校OB。試合時間1時間30分という限られた時間の中、3回までは34歳以下の選手、それ以降は35歳以上の選手で戦います。序盤は互角の戦い、しかし、5回に岩村文雄選手の2本のランニングホームランなど打線が爆発。一挙に9点を挙げ試合を決めます。8回の表を1失点で抑えた矢部高が大差で、甲子園での初勝利をおさめました。

「最初は緊張していたようですが、憧れの舞台とあって実力以上のものが発揮できました。選手はとも感動して、また（甲子園出場を）目指したいと言っていました。」と、自身も甲子園のマウンドを経験した山本さん。

OB会の新開猛人会長は「今回の出場に際し、たくさんの方の支援をいただき感謝しています。おかげで夢を実現できました。現在の矢部高野球部に少しでも希望を与えられたのではないでしょうか。」と感謝の気持ちを話してくれました。

マスタース甲子園

全国の高校野球OB・OGが世代などの壁を越え出身校別の同窓会チームを結成し、全員共通の憧れであり野球の原点でもあった「甲子園球場」で白球を追いかける夢の舞台を目指す大会。2004年から毎年開催されている、日本のフィールドオブドリームス。

試合結果

	一	二	三	四	五	六	七	八	計
天王寺	1	2	0	0	0	0	0	1	4
矢部	2	0	2	0	9	0	1	X	14

ぼく、わたし、虫歯なかったよ～4歳児歯科健診～



すくすく育て

乳 幼 児 健 診

平成23年12月9日=千寿苑 平成23年12月16日=蘇陽総合支所

7ヶ月
健診

1歳児
健診

4ヶ月
健診



※保護者のご承諾をいただいた赤ちゃんを、
撮影・掲載しています。

自然のなかで豊かに育つ子どもたち

その25

矢部郷自然観察会 代表 藤吉 勇治

今号から4回にわたり、平成3年にアフリカ・ケニアを自然探訪したときのことを書いた「母なる大地・アフリカを訪ねて」を連載します。(当時の手記から)

【母なる大地・アフリカを訪ねて(1)】

「ジエームズ、あれはもしかしてゾウのものか。」私は草原の中を走る道に、点々と落ちている巨大な糞を指してドライバーに聞いた。「そう。」と言う。しばらくして彼が叫んだ。「テンボー！」テンボーとはスワヒリ語(アフリカの言葉)



(ケニアの首都ナイロビ)



でゾウのことだ。彼が指さす方を見ると、ブッシュ(藪)の上に見える。大きな岩のようなものが見える。そ

してゆつくりと動き出した。「ゾウだ。」車を近くに寄せる。十頭程の群れだ。その中で一際大きいゾウがこちらを向いて、耳を広げ鼻を高く上げた。ゾウの鋭い声が大気を揺るがした。私たちが威嚇する。群れの中には子どもたちのゾウがいた。周りのゾウたちも一緒に守っている。体が震えるような感動を覚える。「これが野生だ。」本物の自然がある。本当の動物の姿がある。ここはアフリカのケニア、ツアボ国立公園。

今年の夏(平成3年)、七月二十四日から八月十四日までの三週間、私は熊本野生生物研究会有志による「アフリカ自然探訪」の一員としてケニアに行った。幼い頃から自然が好きで、野生の動物に興味がある私にとって、アフリカは夢にまで見たあこがれの地なのだ。このアフリカ行きは三年の準備期間を要してやっと実現したのだった。

七月二十四日、大阪国際空港を離陸。途中タイのバンコクで給油し、約十二時間後インドのボンベイ(現在はムンバイ)に着陸。ここで二泊し、再び離陸。さらに六時間を経て、夜中にケニアのナイロビ空港に到着した。アフリカの大地に足を降ろした。「ううっ、寒い。」これがアフリカでの第一声だった。(次号に続く)

YOU&YOU通信

Vol.56

☆YOU&YOUカップル紹介☆



女性 Jさん 30歳
男性 はん 43歳
交際期間: 4ヶ月

現在、お付き合い中のお二人を紹介し

ます。YOU&YOUに参加されたきっかけは、お二人とも家族や知人の紹介ですが、偶然のタイミングで出会ったお二人の出会いに喜びを感じています。これからもあたたかい目で見守り続けます。

① YOU&YOUに参加したきっかけは?

I.. 知人の紹介です。

J.. 年齢的なこともあり、母のすすめがきっかけです。

② 初めて参加した時の感想は?

I.. 緊張してよく覚えていません。

J.. しゃべり過ぎてないかな、余計な事言っていないかと思っていました。

③ お互いの印象は?

I.. 話してみるとかわいい人だなあ。

J.. おもしろいし、ほめ上手だなって思いました。

④ 現在の心境は?

I.. 彼女を幸せにしたい。

J.. 彼は控えて優しい。一緒に幸せになりたいなっと思っています。

⑤ まだ参加していない独身者(男性・女性)へひと言

I.. 勇気を持って参加してよかったです。今悩んでいる方は、ぜひ参加してみてください。

J.. 私も頑張りました。YOU&YOUで皆さんも頑張ってみませんか。

●お問い合わせ先

山都町役場 浜町事務所 総務課(成瀬・吉田)

【専用電話】

090-6565-6580

【専用アドレス】

marriage.support@town.kumamoto-yamato.lg.jp

【専用アドレス携帯】

you_and_you.docomo.ne.jp

2月の当番医

2月5日 矢部広域病院 (電話72-1121)
 2月12日 瀬戸病院 (電話75-0111)
 2月19日 蘇陽病院 (電話83-1122)
 2月26日 高田整形外科 (電話72-1007)

山都町の人口

〔平成23年12月31日現在〕

男 8,592人(−15)

女 9,168人(−25)

計 17,760人(−40)

世帯 6,759戸(−8)

※()は前月比

※最高齢は106歳〔女性1人〕

※1月1日～12月31日の出生届数
 100人(うち12月は10人)

※1月1日～12月31日の死亡届数
 261人(うち12月は37人)

季節のうた

▼馬見原酔山会

母寝かせほつと一息シクラメン

鳥瓜蔓枯れ果てて宙に在り

冬の月思ひは千千に父を看る

▼やまなみの会

山わろもゐると云ふ里紅葉散る

熱き湯をそぐ焼米香り立つ

石人の丘に名残の紅葉かな

老いの身を案じて来てか娘や孫は玉の汗

雑草を抜く

麴漬けの大根好みし夫偲びやわらかき一本

えらぶ店先

くまモンの口を開いたゆるキャラも見慣れてくると

かわゆく見える

▼通潤句会

着ぶくれし村人集う飯祭り

水に餅沈め居直る余生かな

▼清和短歌会

透きとおる葉月の光悲しくて君が柩と永久に別れる

定まらぬ就職先を気にしてか背中淋しき高三の孫

仕事終え野道でくたくた戻るなり今年が遅き

紅葉眺めつ

工藤美智子
 高田ゆかり
 畑野フミヨ

草樹 萌
 水野 信子
 岩村ヨシ子

木下スエオ

今村 芳子

本田健二郎

田中かつみ

西田えい子

梅田 市子

原由紀子

梶原 徹

軽自動車検査協会熊本事務所が移転します。



軽自動車検査協会熊本事務所は、2月13日(月)に熊本市東本町に移転します。

新住所 熊本市東本町16番3号

※電話番号とFAX番号は変わりません。

問い合わせ

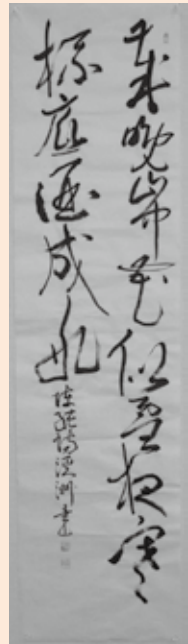
軽自動車検査協会熊本事務所

電話 096-369-5979

FAX 096-369-5017



書道



和光教室書道部の大塚憲一さん(米生)作

編集後記

明けましておめでとうございます。

昨年も、取材を通じてたくさんの「出会い」をいただきました。今年も素晴らしい「出会い」を求めて、町内各地へ取材に出かけます。いろんな情報をお待ちしています。

本年も「広報やまと」をよろしくお願いします。

那須正則さんが 旭日単光章を受章

那須正則さん（緑川）が「旭日単光章」を受章しました。今回の受章は、4期16年にわたり旧清和村議会議員として村政の発展と福祉の向上に貢献した「地方自治功勞」が認められたものです。

那須さんは、旧村内小中学校の校舎などの建築について、住民と行政のパイプ役として、子どもたちの教育環境の整備に尽力されました。また、企業誘致による雇用の拡大などにも大きな功績を残しています。受章おめでとうございます。



旭日単光章を受章した那須正則さん

健康づくり作品 コンクールで入賞



優秀賞を受賞した春木 源也くん

健康づくり作品コンクールは、熊本市町村国保、国保組合等が主催、作品の製作を通じ、若い世代から健康づくりへの意識を高めてもらうと実施されているもので、今年で17回目を迎えます。

山都町からも多数の作品が出展され、中学年の部で春木源也くん（蘇陽小4年）が優秀賞を受賞しました。低学年の部では工藤那月さん（蘇陽小1年）、中矢裕貴くん（馬見原小2年）がそれぞれ入選しました。

優秀賞 蘇陽小4年 春木 源也くん
入 選 蘇陽小1年 工藤 那月さん
入 選 馬見原小2年 中矢 裕貴くん

告本哲崇くん（矢部小2年）が環境大臣賞 第26回「We love トンボ」絵画コンクール

告本哲崇くん（矢部小2年）が、「we love トンボ」絵画コンクールで環境大臣賞を受賞しました。

このコンクールは、朝日新聞社や「学生服のトンボ」などが美しい自然のシンボル・トンボを通じて、自然と生き物を愛する心を育もうと行っているもので、今回は全国の小中高校から16万4千点の応募がありました。

受賞した絵は、おじいちゃんの家で近くで行われた祭りに向かう途中に見た、トンボがたくさん舞う景色を描いたもので、大きく描かれたトンボと元気な顔の表情が評価されました。「（受賞すると）思っても見なかったのでもっとうれしい」と感想を話してくれました。



告本哲崇くんと受賞した作品

平成23年度交通安全標語 コンクール入選作品



山都地区交通安全協会が募集した、交通安全の標語コンクールの入選作品を毎月2作品ずつご紹介していきます。（学校名・学年は当時）

暗闇で 命を守る 反射材

（蘇陽小6年 工藤七菜）

よっぱらい 自転車あぶない 気をつけて

（大野小6年 栗屋幸輝）